

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

# 復習シート 第三年 国語



組	番号	名前

## 【「文学的文章の読解」の問題】

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」瀬戸内海に面した貧しい村に、若い女性の先生が赴任してくる。

「こんどの先生、なにいう名まえ？」

「大石先生。でもからだは、ちっちゃあい人。小林でもわたしはのっぽだけど、ほんとに、ちっちゃあい人よ。わたしのかたぐらしい。」

「わあ！」

①まるでよろこぶようなそのわらい声（注1）をきくと、小林先生はまたきつとなって、

「だけど、わたしらより、ずっとずっとえらい先生よ。わたしのように半人まえではないのよ。」

「ふうん。それで先生、船でかようんかな？」

ここが大問題というようにきくのへ、先生のほうも、ここだなという顔をして、

「船はきょうだけよ。あしたからみんなあえるわ。でも、こんどの先生はなかんよ。わたし、ちゃんといっといたもの。本校の生徒といきし（注1）もどりに出あうけど、もしもいたずらしたら、サルがあそんでると思つときなさい。もしなんかいつてなぶ（注2）つたら、カラスがないたと思つときなさいって。」

「わあ。」

「わあ。」

みんないっせいにわらった。いっしょにわらってそれでわかれてかえっていく、小林先生のうしろすがたが、つぎのまがりかどにきえさるまで、生徒たちは口々にさげんだ。

「せんせえ。」

「さよならあ。」

「よめさあん。」

「さよならあ。」

小林先生はおよめにいくためにやめたのを、みんなはもうしっていたのだ。先生が最後にふりかえって手をふって、それで見えなくなると、②さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこり、一日のつかれも出てきて、もっそりとあるいた。かえると、村は大きわぎだった。

「こんどのおなご先生は、洋服きとるど。」

「こんどのおなご先生は、芋女とちがうど。」

「こんどのおなご先生は、<sup>芋</sup>こんまい人じゃど。」

そしてつぎの日である。芋女出でない、小さな先生にたいして、どきどきするような作戦がこらされた。

こそこそ、こそこそ。

こそこそ、こそこそ。

道々ささやきながらあるいていくかれらは、いきなりどきもをぬかれたのである。場所もわるかった。見通しのきかぬまがりかどの近くで、この道にめずらしい自転車が見えたのだ。自転車はすうつと鳥のように近づいてきたかと思うと、洋服をきた女が、みんなのほうへにこつとわらいかけて、

「おはよう！」

と、風のようにいきすぎた。どうしたってそれはおなご先生にちがいなかった。あるいてくるとばつかり思っていたおなご先生は自転車をとばしてきたのだ。自転車にのったおなご先生ははじめてである。洋服をきたおなご先生もはじめて見る。はじめての日に、おはよう、と、あいさつした先生もはじめてだ。みんな、しばらくはぼかんとしてそのうしろすがたを見おくっていた。

③ぜんぜんこれは生徒のまけである。どうもこれは、いつもの新任先生とはだいぶようすがちがう。少々のいたずらでは、なきそうもないと思った。

「ごついな。」

「おなごのくせに、自転車にのったりして。」

「なまいきじゃな、ちつと。」

男の子たちがこんなふうには批評している一方では、女の子はまた女の子らしく、すこし

ちがった見方で、話はずみだしている。

「ほら、モダンガール<sup>註4</sup>いうの、あれかもしれんな。」

「でも、モダンガール<sup>註4</sup>いうのは、男のようにかみをここのとこで、さんぱつしとることじやろ。」

そういつて耳のうしろで二本の指をはさみにしてみせてから、

「あの先生は、ちゃんとかみゆうとつたもん。」

「それでも、洋服きとるもん。」

「ひよつとしたら、自転車屋の子かもしれんな。あんなきれいな自転車にのるのは。ぴかぴか光つとつたもん。」

「うちらも自転車にのれたらええな。この道をすうつと走りる、気色がええじゃろ。」

なんとしても自転車では太刀打ちできない。しよいなげ<sup>註5</sup>をくわされたように、みんながっかりしていることだけはまちがいなかった。なんとか鼻をあかしてやる方法をかんがえだしたいと、めいめい思っているのだが、なにひとつ思いつかないうちに岬の道を出はざれていた。宿屋のげんかんの柱どけいはきようもまた、みんなの足どりを正直にしめして八分ほどすぎている。

④それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりをまいあがらせた。

（壺井 栄 「二十四の瞳」による）

（注1）行き帰り

（注2）からかってひやかしたら

（注3）小さい

（注4）今の世のはやりの女性

（注5）背負い投げ

問一 ①「まるでよろこぶようなそのわらい声」とあるが、誰の、どのようなことを聞き、よろこぶように笑っているのか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル6**

- ア 小林先生の名まえと異なり体が大きいこと
- イ 小林先生の名まえと同様に体が小さいこと
- ウ 大石先生の名まえと異なり体が小さいこと
- エ 大石先生の名まえと同様に体が大きいこと

問二 ②「さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこ」ったのはなぜですか。文章中の言葉を使って三十文字以内で答えなさい（句読点は一文字を含む） **レベル9**


問三 ③「ぜんぜんこれは生徒のまけである」のはなぜか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル7～9**

- ア 先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に感心したから。
- イ 先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に驚かされたから。
- ウ 先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に通用しなかったから。
- エ 先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に逆に驚かされたから。

問四 ④「それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりをまいあがらせた。」とありますが、この表現はどのようなことを表していますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル7～9**

- ア 生徒たちの周りを、つむじ風が吹き抜けていったこと。
- イ 生徒たちが、いっせいに家に向かって走り出したこと。
- ウ 生徒たちの筆入の中身が、いっせいに足下に落ちたこと。
- エ 生徒たちが、いっせいに学校に向かって走り出したこと。



埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

# 復習シート 第三年 国語



組	番号	名前
<b>模範解答</b>		

## 【「文学的文章の読解」の問題】

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」、瀬戸内海に面した貧しい村に、若い女性の先生が赴任してくる。

「こんどの先生、なにいう名まえ？」

「大石先生。でもからだは、ちっちゃあいい人。小林でもわたしはのっぽだけど、ほんとに、ちっちゃあいい人よ。わたしのかたぐらいい。」

「わあ！」

①まるでよるこぶようなそのわらい声をきくと、小林先生は「**ちっちゃあいい人**」のよ。」

大石先生（大きな石）  
 小林先生（小さい林）  
 ◎名前と身体的特徴が異なるところがおもしろい

ここが大問題というようにきくのへ 先生のほうも ここたなという顔をして

「船はきょうだけよ。あしたからみんなあえるわ。でも、こんどの先生はなかんよ。わたし、ちゃんといつといたもの。本校の生徒といきしもどりに出あうけど、もしもいたずらしたら、サルがあそんでると思つときなさい。もしなんかいつてなぶつたら、カラスがないたと思つときなさいって。」

「わあ。」

「わあ。」

みんないつせいにわらった。いっしょにわらつてそれでわかれてかえっていく、小林先生のうしろすがたが、つぎのまがりかどにきえさるまで、生徒たちは口々にさげんだ。

「せんせえ。」

「さよならあ。」

「よめさあん。」

「さよならあ。」

小林先生はおよめにいくためにやめたのを、みんなはもうしつていたので。先生が最後にふりかえって手をふって、それで見えなくなると、②さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこり、一日のつかいも、もっそりとあるいた。かえると、

「小林先生」 「およめ」 「(先生を) やめた」 「(最後に)」 など  
の言葉を用い、生徒が悲しくなった理由をまとめます。

「こんどのおなご先生は、<sup>注3</sup>こんまい人じゃど。」

そしてつぎの日である。

芋女出でない、小さな先生にたいして、どきどきするような作

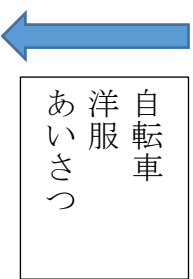
戦がこらされた。

日が変わること

に注意

生徒たち

◎小さな先生への作戦  
(大石先生)



- ・どきもをぬかれた
- ・ぼかんとして
- ◎少々のいたずらでは、なきそうもない

くかれらは、いきなりどきもをぬかれたのである。場所  
まがりかどの近くで、この道にめずらしい自転車が見えた  
に近づいてきたかと思うと、洋服をきた女が、みんなの  
したってそれはおなご先生にちがいなかった。あるいて  
先生は自転車をとばしてきたのだ。自転車にのったおな

ご先生ははじめてである。洋服をきたおなご先生もはじめて見る。はじめての日に、おは  
よう、と、あいさつした先生もはじめてだ。みんな、しばらくはぼかんとしてそのうしろ  
すがたを見おくっていた。

③ぜんぜんこれは生徒のまけである。どうもこれは、いつもの新任先生とはだいぶよう  
すがちがう。少々のいたずらでは、なきそうもないと思った。

「どついな。」

「おなごのくせに、自転車にのったりして。」

「なまいきじゃな、ちつと。」

男の子たちがこんなふうには批評している一方では、女の子はまた女の子らしく、すこし  
ちがった見方で、話はずみだしている。

「ほら、モダンガール<sup>註4</sup>というのは、あれかもしれないな。」  
「でも、モダンガールというのは、男のようにかみをここのとこで、さんぱつしとることじやろ。」

そういつて耳のうしろで二本の指をはさみにしてみせてから、

「あの先生は、ちゃんとかみゆうとつたもん。」

「それでも、洋服きとるもん。」

「ひよつし<sup>現在</sup> 登校中  
なきれいな自転車にのるのは。ぴか

ぴか光つし<sup>宿屋の柱どけい</sup> 八分ほどすぎている

「うちら<sup>筆入はいっせいになりだし、</sup>と走りる、気色がええじゃろ。」

なんと<sup>ぞうりはほこりをまいあがらせた</sup>なげをくわされたように、みんなが

っかりしている<sup>まぢがいなかつた。なんとか鼻をあかしてやる方法をかんがえ</sup>

だしたいと、め<sup>い思っているのだが、なにひとつ思いつかないうちに岬の道を出はず</sup>

れていた。宿屋のげんかんの柱どけいはきょうもまた、みんなの足どりを正直にしめして

八分ほどすぎている。

④それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりを

まいあがらせた。

（壺井 栄 「二十四の瞳」による）

（注1）行き帰り

（注2）からかってひやかしたら

（注3）小さい

（注4）今の世のはやりの女性

（注5）背負い投げ

問一 ①「まるでよろこぶようなそのわらい声」とあるが、誰の、どのようなことを聞き、よろこぶように笑っているのか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル6**

- ア 小林先生の名まえと異なり体が大きいこと
- イ 小林先生の名まえと同様に体が小さいこと
- ウ 大石先生の名まえと異なり体が小さいこと
- エ 大石先生の名まえと同様に体が大きいこと

直前の小林先生の言動から生徒が笑った原因が分かります。

ウ

問二 ②「さすがにみんなのむねには、へんな、ものがなしさがのこったのはなぜです。直前の文章から言葉を拾いまとめます。」 **レベル9**

生	小	生	を	林	先	生	は	お	よ	め	に	い	く	た	め	に	先
を	を	や	め	、	さ	み	し	く	思	つ	た	か	ら	。			

問三 ③「ぜんぜんこれは生徒のまけである」のはなぜか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル7～9**

- ア 先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に感心したから。
- イ 先生にいたずらしようと思ったが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に驚かされたから。
- ウ 先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に通用しなかったから。
- エ 先生にいたずらしたが、自転車に乗って、洋服を着て、あいさつした先生に逆に驚かされたから。

生徒のまけということは、生徒がしようと思ったことが逆にされたことを意味します。

イ

問四 ④「それ、とばかり、せなかとわきの下の筆入はいっせいになりだし、ぞうりはほこりをまいあがらせた。」とありますが、この表現はどのようなことを表していますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル7～9**

- ア 生徒たちの周りを、つむじ風が吹き抜けていったこと。
- イ 生徒たちが、いっせいに家に向かって走り出したこと。
- ウ 生徒たちの筆入の中身が、いっせいに足下に落ちたこと。
- エ 生徒たちが、いっせいに学校に向かって走り出したこと。

エ

登校中であること、時間が過ぎていること、いっせいに筆入がなりだすことから、生徒たちが何を始めたのか考えます。

